

2006(平成 18)年度 法学既修者選考試験問題

# 民事訴訟法

(90 分、総点 100 点)

**試験開始の指示があるまで開かないこと**

## 注意

- 1 . 問題用紙は、表紙をふくめて 4 ページで、問題は 1 問ある。
- 2 . 解答用紙は 1 枚配布する。解答は解答用紙に記入し、解答の末尾には、「以上」と明記すること。また、用紙が不足した場合には、追加の用紙を配布するので、挙手して監督者に知らせること。
- 3 . 下書き用紙として、白紙を 1 枚配布する。ただし、下書き用紙の提出は認めないので、必ず解答用紙に清書して提出すること。
- 4 . 解答用紙への受験番号、氏名記入は、監督者の指示によること。また、「管理番号」欄は、大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
- 5 . 問題の内容に関する質問には、応じない。
- 6 . 試験時間内の退場はできない。なお、試験中の発病等やむを得ない場合には、挙手により監督者に知らせ、その指示に従うこと。
- 7 . 試験終了後は、監督者の指示があるまで、各自の席で待機すること。
- 8 . 問題用紙及び下書き用紙は、各自で持ち帰ること。

次の事例について、設問に答えなさい。

【事 例】

- 1 Yは、某市内の中心部近くの繁華街に、先代Aの土地を相続して所有していた。
- 2 Yは、書店を経営していたが、売り上げが思うように伸びず、そろそろ廃業を考え、その土地の売却を検討していた。
- 3 Xは、IT関連のベンチャー企業を起こそうとして準備中であった。
- 4 Xは、偶然、Yの土地が売りに出されそうなことを知り、交通の便もよく広さも手頃なので、購入したいと考えた。
- 5 Zは、たまたま上記X、Y双方の事情を知り、これを利用して一儲けしようと企み、Yに無断で本件土地の売却に関し、Yの代理人と偽って交渉にあたり、Xと売買契約を成立させ、契約書にはXとZがそれぞれ署名捺印をした。
- 6 上記売買契約の主要な内容は、土地代金は2回に分けて支払うこと、代金全額の支払いと引き換えに土地の引渡しと所有権移転登記をすること、であった。
- 7 Xは、契約を締結した日にZに半額を支払い、残額は1カ月後の月末に支払うことになっていたのですが、約束の期日に、約束の場所でZを待ったが、Zは約束の場所に現れず、結局、契約は履行されなかった。
- 8 暫くして、実際のところ、Yの代理人と称したZは無権代理人であったことが判明した。
- 9 Xは、Yからその土地の引渡しを受けるべく、まず、Yに対し本件土地の引渡しと所有権移転登記を求める訴えを提起したい。
- 10 しかし、もし、Yへの上記請求が無理なときは、Zに対し無権代理人としての責任を追及したい、できれば一つの訴えでできないものか、と考えている。

【設 問】

- (1) XからYおよびZを相手とする訴えにおける訴訟物は何か。(20点)
- (2) XからYおよびZを相手とする訴えは、どのような共同訴訟になるだろうか。  
その訴訟のなかで、YまたはZの訴訟行為がZまたはYに対してどのような影響を及ぼすであろうか。(30点)
- (3) Xは、いずれ自分が勝訴するであろうものの、訴訟を続けていると起業の準備が遅れそうであるし、幸い同じような条件の土地が入手できそうになったため、この土地に対する権利をPに譲渡したとする。Pがこの訴訟に関与する方法、および関与した後の訴訟上の地位、権限はどのようなものであろうか。(30点)
- (4) この訴訟の審理がかなり進んだところで、X、Y、Zとも、口頭弁論期日に欠席したとする。この訴訟の審理はその後どのように取り扱われるであろうか。(20点)

余白